

⑦ 海鳥を指標種とした重要地域（沿岸域・海洋域・島嶼地域）

全国レベルのエコ・ネットにおける、島嶼地域及びその周辺海域の部分の現況の図化に当たっては、その存在が、人為の干渉が少なく、海域においては豊かな水産資源が存在することを指標する海鳥、具体的にはその集団繁殖地(コロニー)にも注目した。

海鳥の集団繁殖地(コロニー)については、海鳥研究者ネットワークである日本海鳥グループにより、一部環境省の委託を受けつつ、観察場所・観察年・観察した海鳥の種類・繁殖数等の情報を内容とする「海鳥類コロニーデータベース」の作成が進められているが、現在、まだ利用可能な状況にない。

こうしたなか、現時点で、全国レベルで重要な海鳥の集団繁殖地（コロニー）を抽出する方法としては、モニタリングサイト 1000 の島嶼調査サイト(海鳥調査サイト)、「生物多様性保全のための国土区分ごとの重要地域情報（再整理）」(環境省、2001年)の利用が考えられた。

モニタリングサイト 1000 の調査サイトの配置基準は図 37、島嶼調査サイト(海鳥調査サイト)は表 9 の通りである。選定に当たっては海鳥類コロニーデータベースも参考にして選定された。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">①日本固有種、希少種、分布北限・南限種、海洋環境指標種の繁殖地への配置②上記対象種の繁殖分布域内における地理的な均等配置③長期継続調査が実施可能な場所への配置 ※海鳥類コロニーデータベースも参考にして選定。 |
|---|

図 37 モニタリングサイト 1000 の島嶼調査サイト(海鳥調査サイト)配置基準

出典：環境省自然環境局生物多様性センター提供資料(モニタリングサイト 1000 における島嶼調査サイト(海鳥類調査サイト、平成 19 年度終了時点)) をもとに作成

「生物多様性保全のための国土区分ごとの重要地域情報（再整理）」における「区域内の環境特性の要因の違いにより特徴づけられる重要な生態系」（重要地域 B、計 1,195 地域）では、海鳥の繁殖地等として重要との観点も含めて抽出作業が行われている。同資料にもとづき抽出した、全国レベルで重要と考えられる海鳥の集団繁殖地等の一覧を表 10 に示す。

表9 モニタリングサイト1000の島嶼調査サイト(海鳥調査サイト)

調査サイト名	主な対象種	都道府県
天売島	ウミガラス、ウトウ他	北海道
ユルリ島・モユルリ島	エトピリカ、チシマウガラス他	北海道
渡島大島	オオミズナギドリ	北海道
知床半島	ケイマフリ、ウミウ他	北海道
大黒島	コシジロウミツバメ他	北海道
弁天島(東通村)	ケイマフリ	青森県
蕪島	ウミネコ	青森県
日出島	クロコシジロウミツバメ	岩手県
三貫島	ヒメクロウミツバメ他	岩手県
足島	ウトウ、ウミネコ他	宮城県
飛島・御積島	ウミネコ、ウミウ他	山形県
神津島	オーストンウミツバメ他	東京都
御蔵島	オーストンウミツバメ他	東京都
八丈島	オーストンウミツバメ他	東京都
鳥島	アホウドリ他	東京都
聳島列島	オーストンウミツバメ他	東京都
冠島・沓島	オオミズナギドリ、ヒメクロウミツバメ他	京都府
隠岐諸島	ヒメクロウミツバメ他	島根県
経島	ウミネコ	島根県
蒲葵島・宿毛湾	カンムリウミスズメ	高知県
沖ノ島・小屋島(宗像市)	ヒメクロウミツバメ他	福岡県
三池島	ベニアジサシ	福岡県
男女群島	オオミズナギドリ他	長崎県
枇榔島	カンムリウミスズメ	宮崎県
トカラ列島	オオミズナギドリ他	鹿児島県
奄美諸島	アジサシ類、アナドリ	鹿児島県
沖縄島沿岸離島	アジサシ類	沖縄県
宮古群島	アジサシ類	沖縄県
八重山群島	アジサシ類	沖縄県
仲の神島	アジサシ類、アオツラカツオドリ他	沖縄県

出典：環境省自然環境局生物多様性センター資料(モニタリングサイト1000における島嶼調査サイト(海鳥類調査サイト、平成19年度終了時点))、重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト1000)推進検討会(2007年12月21日)(財)山階鳥類研究所作成資料をもとに作成。

表10 環境省(2001年)にもとづき抽出した、全国レベルで重要と考えられる海鳥の集団繁殖地等*

特定地域の群集名	面積(ha)	備考欄における海鳥に関する記述	主な所在地
大黒島	10未満	海鳥繁殖地、海鳥類(コシジロウミツバメ、ウトウ等)	北海道
ユルリ島・モユルリ島	10未満	海鳥繁殖地、海鳥類(ウトウ、オオセグロカモメ等)	北海道
知床半島(岩尾別)	10未満	海鳥繁殖地、海鳥類(ウトウ、オオセグロカモメ等)	北海道
北海道渡島大島	10未満	海鳥繁殖地(オオミズナギドリ)	北海道
天売島	10未満	海鳥繁殖地、海鳥類(ウトウ、ウミウ等)	北海道

青森県蕪島	10 未満	海鳥繁殖地 (ウミネコ)	青森県
青森県弁天島	10 未満	海鳥繁殖地	青森県
岩手県椿島	10 未満	海鳥繁殖地(ウミネコ)	岩手県
岩手県三貫島	10 未満	海鳥繁殖地、海鳥	岩手県
日の出島	10 未満	海鳥繁殖地	岩手県
陸前江ノ島ウミネコ・ウトウ繁殖地	10 未満	海鳥類 (ウミネコ、ウトウ、オオミズナギドリ)	宮城県
山形県飛島	10 未満	海鳥繁殖地 (ウミネコ)	山形県
照島ウ生息地	10 未満	海鳥類 (ウミウ)	福島県
三宅島大野原島(三本岳)	10 未満	海鳥繁殖地	東京都
神津島恩馳島	10 未満	海鳥繁殖地	東京都
神津島祇苗島	10 未満	海鳥繁殖地、海鳥類	東京都
硫黄列島南硫黄島	10 未満	海鳥繁殖地	東京都
硫黄列島北硫黄島	10 未満	海鳥繁殖地	東京都
伊豆諸島鳥島	10 未満	海鳥繁殖地	東京都
新潟県粟島	10 未満	海鳥繁殖地、海鳥類 (オオミズナギドリ、ウミウ等)	新潟県
七ツ島	10 未満	海鳥繁殖地	石川県
大島 (七ツ島)	10 未満	海鳥繁殖地	石川県
錦・紀伊長島の海鳥繁殖地	10 未満	海鳥繁殖地 (ウミネコ等)	三重県
冠島	10 未満	海鳥繁殖地 (オオミズナギドリ)	京都府
沓島	10 未満	海鳥集団繁殖地、海鳥類	京都府
経島	10 未満	海鳥繁殖地 (ウミネコ)	島根県
星神島	10 未満	海鳥繁殖地 (オオミズナギドリ)	島根県
沖島オオミズナギドリ繁殖地	10 未満	海鳥繁殖地 (オオミズナギドリ)	島根県
大波加島オオミズナギドリ繁殖地	10 未満	鳥類 (オオミズナギドリ)	島根県
壁島ウ渡来地	10 未満	海鳥類 (ウミウ)	山口県
鹿島海岸	10 未満	海鳥越冬地	佐賀県
大授搦	10 未満	海鳥越冬地	佐賀県
熊本県球磨川河口	10 未満	海鳥越冬地	熊本県
門川町	10 未満	海鳥繁殖地、海鳥類 (オオミズナギドリ等)	宮崎県
八重山諸島神島	10~100	仲ノ神島、海鳥繁殖地	沖縄県
尖閣諸島南小島	10 未満	海鳥繁殖地	沖縄県

※環境省「生物多様性保全のための国土区分ごとの重要地域情報 (再整理)」(2001 年)においてあげられた「区域内の環境特性の要因の違いにより特徴づけられる重要な生態系」(重要地域 B)の一覧表の「備考」欄に、海鳥への言及があるものを抽出したもの。抽出した重要地域については、ここでは分かりやすさを優先し、北海道から沖縄の順に配列し直した。

出典：環境省「生物多様性保全のための国土区分ごとの重要地域情報 (再整理)」(2001 年)をもとに作成。

現時点で利用可能な上記資料をもとに、表9、10に示された海鳥の集団繁殖地を、全国エコ・ネットの現況図に図示した。

また、西太平洋に固有で、全生息数の大半が日本の島嶼で繁殖する海鳥のオオミズナギドリについて、伊豆諸島御蔵島での衛星発信器を装着した調査により、繁殖活動を行うオオミズナギドリが、子育て中、三陸沖から北海道南岸の黒潮・親潮混流域へと採食回遊することが明らかにされている(図38 岡奈理子(2003年):「希少鳥類の生存と回復に関する研究 Part5」.,山階鳥類研究所「やましな鳥研 NEWS 第168号(Vol.15 No.3)」)。

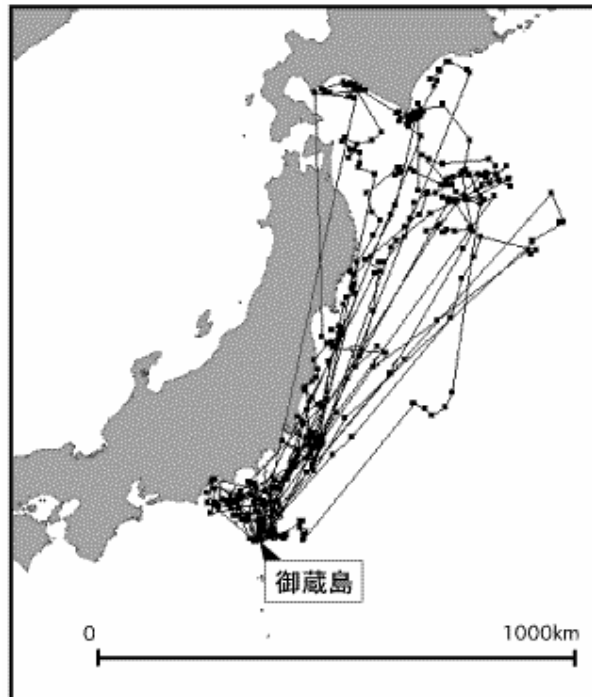


図38 伊豆諸島御蔵島のオオミズナギドリの子育て中の行動圏(2002年9月1日～10月8日)

出典：岡奈理子(2003年):「希少鳥類の生存と回復に関する研究 Part5」.,山階鳥類研究所「やましな鳥研 NEWS 第168号(Vol.15 No.3)」.

海鳥のうち、例えばミズナギドリ目、ペリカン目の鳥類のうち、12種が環境省の鳥類レッドリストに掲載されるなど、コロニーのある場所とともにそれらの採食海域の保全が求められている。

以上のことから、海鳥の視点からの全国エコ・ネットの現況図として、海鳥の集団繁殖地のある島嶼等とともに、一例として、伊豆諸島御蔵島オオミズナギドリ繁殖集団の子育て中の重要採食海域であることが判明している三陸沖から北海道南岸の黒潮・親潮混流域及び同海域への回遊ルート(模式的ルート)を、併せて示した。

なお、御蔵島での調査をベースに、日本で繁殖するオオミズナギドリなどの海鳥にとっての重要採食海域を明らかにする調査が、他の島嶼で、その後も続けられている。

主に関係する生態系等のタイプ

島嶼、海域

全国レベルでみた
海鳥の主な集団繁殖地

伊豆諸島御蔵島のオオミズナギドリ
繁殖集団の子育て中の重要採食海域

伊豆諸島御蔵島のオオミズナギドリ
繁殖集団の子育て中の
重要採食海域への回遊ルート（概念図）

海底地形（水深）

- 0 - 200 m
- 2,000 - 1,000 m
- 1,000 - 2,000 m
- 2,000 - 3,000 m
- 3,000 - 4,000 m
- 4,000 - 5,000 m
- 5,000 - 6,000 m
- 6,000 - 7,000 m
- 7,000 - 8,000 m
- 8,000 - 9,000 m
- 9,000 - 10,000 m
- 10,000 m以深

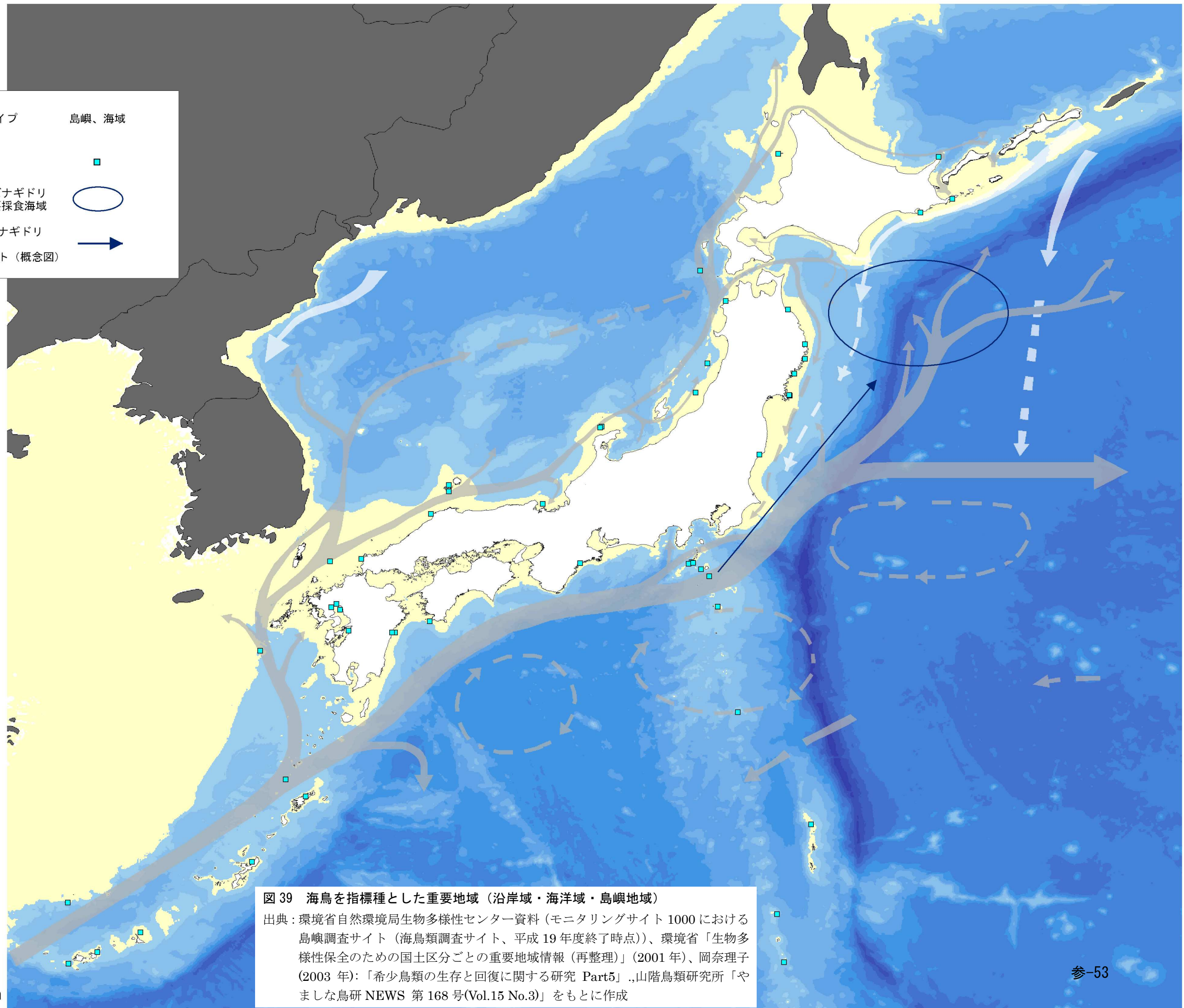
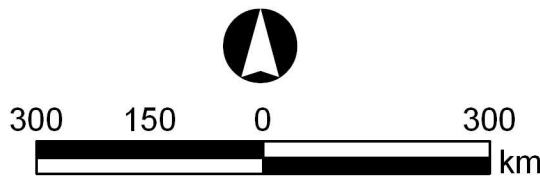


図 39 海鳥を指標種とした重要地域（沿岸域・海洋域・島嶼地域）

出典：環境省自然環境局生物多様性センター資料（モニタリングサイト 1000 における島嶼調査サイト（海鳥類調査サイト、平成 19 年度終了時点）、環境省「生物多様性保全のための国土区分ごとの重要地域情報（再整理）」（2001 年）、岡奈理子（2003 年）：「希少鳥類の生存と回復に関する研究 Part5」.,山階鳥類研究所「やましな鳥研 NEWS 第 168 号(Vol.15 No.3)」をもとに作成